

防災の新常識／最新事情・1  
～防災の日常化～

---

●防災の日常化に取り組もう

「防災の日常化」という言葉をご存知ですか。  
防災を日常的に行うことで、  
防災の取り組みをより定着させようとする新しい考え方です。

例えば、ローリングストック法という食料の備蓄方法。  
備蓄した食品を定期的に消費し、  
食べた分だけ買い足す備蓄方法です。  
これは食料の備蓄を“日常”に取り込もうという方法です。

●学校での、防災の日常化の取り組み方法

防災の日常化は、これまでも学校で取り組まれています。  
その模範的な例が避難訓練です。

繰り返し行われる避難訓練によって、子どもたちに防災意識が定着し、  
自分の身を守る行動が身につくという効果があります。

また、教職員共済だより165号『学校でできる防災の取り組み』で紹介しましたが、  
学校の昼休みの校内放送で、  
防災に関する日（例えば、9月1日「防災の日」）に過去の災害で何が起きたかを伝える。  
また、普段から携帯トイレをトイレの近くに備えておく。  
これらも、防災の日常化の取り組みといえます。

●避難所開設時の部屋割りを常時表示

ある学校の教室の扉には、  
「避難所開設時会議室」「避難所開設時授乳室」といった表示が張りつけられています。  
これは学校が避難所となったとき、この教室がどういう役割の部屋となるのかを示しています。

表示しておくことで日常的に防災を意識できますし、  
避難所の開設もスムーズに行える、よいアイデアです。  
皆さまの学校でも、参考にしてはいかがでしょうか。

●継続がカギ

学校における防災の取り組みを定着させる上での課題は、「継続性」の確保です。  
防災教育の中心となっていた教職員が異動になると、

その後の活動が続いていかないことがあります。

消防署・消防団、自主防災組織など外部の力を大いに活用しましょう。

防災教育推進協会も、

学校現場の要望に応じてジュニア防災検定、防災寺子屋、防災教育相談など、

学校の防災教育を支援する活動を行っています。

(一財) 防災教育推進協会 笠間 正弘